

1. 沿革

本市が位置する糸島半島は、弥生時代より大陸からの新文化を受容する玄関口としての役割を担っていました。中国の歴史書「魏志倭人伝」に記述される「伊都国」の地であり、現在も市内各地に当時をしのばせる遺跡や出土品が豊富に残っています。なかでも、国指定史跡の平原遺跡から出土した日本最大の銅鏡「内行花文鏡」(国宝)は、その繁栄ぶりを如実に物語っています。

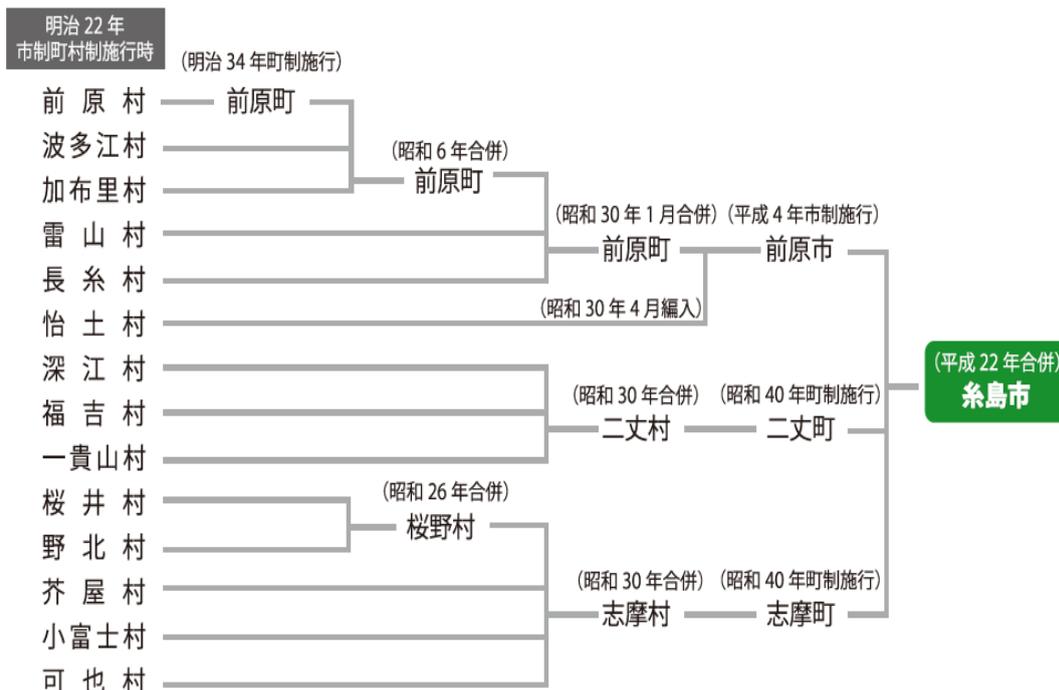
江戸時代には、現在の前原名店街を中心とした市街地が唐津街道の宿場町として賑わい、以後、糸島地域の政治、経済、文化、交通の中心地として発展してきました。

明治22年には市制町村制が施行され、全国一律に行われた町村合併により、現在の糸島地域において、それまで80を超えていた村が、怡土郡(一貴山村、深江村、福吉村、長飯本村(明治25年、長糸村に改称)、加布里村、雷山村、怡土村)と志摩郡(前原村、波多江村、可也村、小富士村、芥屋村、野北村、桜井村)の2郡14村になり、明治29年には、怡土・志摩の両郡が合併し、「糸島郡」が誕生しています。

明治34年には前原村が町制を施行し、前原町になり、昭和6年には、波多江村、加布里村と合併しました。昭和30年には「昭和の大合併」により、前原町は、雷山村、長糸村との合併、怡土村の編入を経て、新町制の前原町になりました。また、同年に一貴山村、深江村、福吉村が合併し二丈村に、可也村、小富士村、芥屋村、桜野村(昭和26年、野北村と桜井村が合併)が合併し志摩村になりました。

昭和40年には二丈村、志摩村が町制を施行し、二丈町、志摩町となり、平成4年には前原町が市制を施行し、前原市になりました。

平成22年1月に「平成の大合併」により、前原市、二丈町、志摩町が合併し「糸島市」が誕生。現在に至っています。



2. 概要

【優れた交通アクセスと恵まれた立地条件】

本市の面積は216.15km²で、東西約24km、南北約19kmにわたり、福岡県下では第6位の面積を有します。

本市は、福岡市を中心とする福岡都市圏の西部に位置し、JR筑肥線、西九州自動車道や国道202号などの主要幹線道路をはじめとした交通基盤の整備により、福岡市への時間距離が約30分と、交通アクセスが非常に優れています。加えて、自然、歴史、食材に恵まれ、都市近郊の緑豊かな生活環境が形成されています。

【豊かな海・山・川と田園風景】

南部には脊振雷山県立自然公園に指定された山々、北部には玄海国定公園に指定された海岸線を有する自然豊かな地域です。これらの豊かな自然は、農林水産物の供給をはじめ、水源のかん養、地球温暖化の防止、良好な景観の形成など、多面的な役割を果たしています。また、糸島平野では、瑞梅寺川、雷山川、長野川、一貴山川などの2級河川が南北に流れており、周囲には広大な農地と集落からなる美しい田園風景が広がっています。

【古代ロマンを秘めた歴史・文化】

古来より、大陸文化の玄関口として栄えた本市域には、日本最大の銅鏡である「内行花文鏡」を含む平原遺跡出土品(国宝)をはじめとして、8か所の国指定史跡や遺跡、古墳群など、悠久の歴史、文化をしのばせる多くの文化財が点在しています。また、高祖神社、桜井神社、雷山千如寺をはじめとした神社・仏閣が各地域に存在しており、高祖神楽や福井神楽、大入盆綱引き、桜井神社の流鏝馬、深江・福吉地区の神幸祭、桜井二見ヶ浦大注連縄掛け、白糸の寒みそぎ、老松神社の追儺祭などの歴史ある伝統行事が各地域で受け継がれ、地域コミュニティを育むきっかけとなっています。

【九州大学移転に伴う波及効果】

平成17年10月から、九州大学の伊都キャンパスへの統合移転が開始され、平成30年度までには完了する予定です。移転完了後には、約1万8,700人の学生や教職員、その他関係者が本市や福岡市西部に流入することが予測されています。また、大学との共同研究を目的とする企業・研究機関の立地、新産業の創出、ベンチャー企業の育成、世界各国からの留学生との国際交流の拡大、市民の生涯学習機会の拡充、共同イベントの開催など、世界レベルの知的資源と若い人的資源を有する九州大学とのさまざまな連携・交流による無限の可能性が期待されます。

【新鮮で豊富な食料の供給地】

本市では、古くから農業が盛んです。現在の主要な生産物としては、野菜・花き・果物などの園芸作物、水稻、畜産物が挙げられます。また、近隣都市の食料供給地としての役割を果たすなど、農林水産業は、本市を代表する産業として重要な役割を担っています。

【多彩な観光資源】

市内で生産された農林水産物や特産品は、JA直売所で売上高日本一を誇る「伊都菜彩」をはじめとした市内約20か所の直売所などでも販売されており、市内外の買い物客で賑っています。また、観光農園や貸農園は市内に13か所あり、農林水産業と観光とを融合させたグリーンツーリズムやブルーツーリズムも展開されています。

本市は、玄海国定公園、脊振雷山県立自然公園などの美しい自然景観や豊かな自然環境、貴重な歴史・文化資源、有名な神社・仏閣、伝統的な祭り、新鮮で安価な食材などの多彩な観光資源を提供することで、福岡都市圏をはじめ、隣接する佐賀県唐津市などから気軽に訪れることができるレジャースポットとなっています。

サーフィンや海水浴が盛んな海岸線、登山を楽しむ自然歩道、地元食材を使ったカフェや飲食店、芸術家が創作活動をしている工房、新鮮な農産品や魚介類を扱う直売所などにおいて、人々のふれあいや交流が活発に行われています。

これらにより、本市を訪れる人の数は年々増加し、観光入込客数は年々増加し、平成28年で約632.9万人に達しています。

3. 位置、面積

